

地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 札幌市の事例（2018年度～）

<取組の内容>

【実施体制の整備】

- 15歳～39歳の若者向けに自立支援や学習相談・学習支援、就労支援等を行う「札幌市若者支援総合センター」をはじめとした市内5か所の若者支援施設と教育委員会、中学校・高等学校、NPO法人が連携して実施体制を整備。

【学習相談・学習支援の実施】

- 学習相談は、電話・SNS・対面で対応している。特に、コロナウイルス感染症予防対策、交通費負担の軽減、複数人での学習に負担を感じるケースもあることから、SNS（「LINE」）を活用した取組を積極的に実施。
- 週1回2時間程度で、高卒認定試験の直前には集中対策講座を追加で実施。参加者と学習支援コーディネーターで目標を設定し、個人に合った学習支援を行うとともに、一旦支援が中断した者に対しても継続的にサポートを行う。

【広報の取組】

- 札幌市若者支援総合センター、中学校・高等学校や地域内の若年者の就労支援等を行うさっぽろ子ども・若者支援地域協議会とも連携して周知を行うとともに、生活困窮者向け学習支援からの繋ぎ等により参加者を確保。

<取組の成果>

- のべ500名以上が事業を利用し、30名程度が高卒認定試験の受験もしくは就職活動を行った。

<今後の取組>

- 本事業での取り組みは、通学の再開や、高卒認定資格の取得など、支援の途切れを防ぐ観点から重要だが、現状、一部の高等学校のみでの活用にとどまっているので、周知等通じ更なる高等学校への働きかけを推進。
- 本事業の対象となる若者の中には、生活、家庭環境、障がいの有無等複合的な課題を持つ場合も多いので、学習支援にとどまらず、軽食の提供等生活面の支援についても対応する必要がある。